

2011年4月1日～2024年4月30日の間に 当科においての鼠径部ヘルニア嵌頓や閉鎖孔ヘルニア嵌頓治療を受 けられた方及びご家族の方へ

「鼠径部及び閉鎖孔ヘルニア嵌頓の腸管虚血の予測因子」へのご協力をお願い

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学附属病院消化器外科 シニアレジデント 峯田 修明

1. 研究の概要

鼠径部ヘルニア嵌頓や閉鎖孔ヘルニア嵌頓は救急診療において頻度が高い疾患の一つです。嵌頓腸管が可逆的な虚血状態であれば用手還納により安全に嵌頓解除でき、待機手術へつなげることができます。一方、腸管虚血が不可逆的な場合では用手還納そのものが危険性を伴う処置となるため、腸切除などの緊急手術が必要となります。そこで鼠径部ヘルニア嵌頓や閉鎖孔ヘルニア嵌頓における腸管虚血の可逆性について信頼できる術前評価因子を明らかにすることを目的に、鼠径部ヘルニア嵌頓及び閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例を後方視的に検討します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2011年4月1日～2024年4月30日の間に川崎医科大学附属病院において鼠径部ヘルニア嵌頓や閉鎖孔ヘルニア嵌頓の治療を受けられた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2026年3月31日

3) 研究方法

2011年4月1日～2024年4月30日までの間に鼠径部ヘルニア嵌頓や閉鎖孔ヘルニア嵌頓と診断された患者で、研究者が診療情報をもとに治療成績について調べます。

4) 使用する情報の種類

発症から受診までの時間、37℃以上の発熱の有無、血液検査所見(WBC、CRP、Lac)、CT所見(腹水の有無、嵌頓腸管内容CT値)等

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学消化器外科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2025年12月30日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

< 問い合わせ・連絡先 >

川崎医科大学附属病院 消化器外科

氏名：峯田 修明

電話：086-462-1111 内線 26503（平日：9時00分～17時00分）

E-mail：mineta.0427@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。